



NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>



謹んで新年のご祝辞を申し上げます

社員の皆様におかれましては、良き新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。昨年中は、ISOの推進にご協力いただき、ありがとうございました。本年も昨年同様、より良きマネジメントシステムとして、展開、推進できますようにご意見、ご指導の程よろしくお願いたします。

昨年2018年を振り返ってみる例年にも増して地震、豪雨、台風、猛暑と自然災害の多い年でした。

・6月8日に起こった、大阪北部地震では小学校のブロック塀が崩れ、女子児童が犠牲となりました。1978年に発生した宮城県沖地震では死者16人のうち、11人がブロック塀倒壊で犠牲となっています。建築基準法が改定されても実行されず、経験は生かされませんでした。

・7月に西日本を襲った豪雨は200人以上の死者を出す大災害となりました。中でも倉敷市真備町では4分の1以上が浸水、水の深さは最大で4.8mに及び50人にもおよぶ犠牲者が出ました。

水害に対する河川整備計画は、過去50年にわたり様々な経緯で変遷し、2014年によく予算がつき、今年の秋から工事に入る予定だったが、改修工事は間に合いませんでした。

・9月4日、台風21号は最大瞬間風速が47.4m/sの暴風で近畿地方に上陸し、関西国際空港の連絡橋にタンカーが衝突し、空港が孤立する事態となりました。更に、滑走路も冠水し、多くの便が欠航しました。

・最大震度7を観測した9月6日の北海道胆振東部地震では、大規模な土砂崩れが起き、厚真町を中心に41名の命が奪われました。また、北海道内全域で「ブラックアウト」と呼ばれる停電が起きました。

これらの災害はいずれも「自然災害」ですが被害を最小限にとどめるための「予防処置」は万全だったのでしょうか。大型台風、豪雨の発生を減らすための地球温暖化対策は進んでいたのでしょうか。ブラック塀を無くすことは出来ないのでしょうか。ブラックアウトへの対策は十分だったのでしょうか。

人間の知恵、力では防ぐことの出来ない災害を「自然災害」と呼ぶのでしょうか。「叡智」で被害を小さくすることは可能です。2019年は災害の少ない年であってほしいものです。



【ISO14001掲示板】

国連の専門機関、IPCC=「気候変動に関する政府間パネル」は、ことし10月、「COP24」に先立って報告書を公表し、各国が掲げている削減目標では、世界の平均気温の上昇を産業革命前に

比べ1.5度に抑えることはできず、温暖化の影響は防げないとして、世界全体で取組みを加速させることが必要と指摘しました。

◎ポーランドで開催の「COP24」は、パリ協定の実施に必要なルールを採択し、閉幕しました。NHK NEWSWEBより

「COP24」地球温暖化対策の会議は、パリ協定の実施に必要なルールを採択し、閉幕しました。今後は、このルールのもとで各国が対策を強化できるかが焦点となります。

新たに採択されたルールでは、温室効果ガスの削減目標や途上国への資金支援、そして各国の取り組みをどう評価するかなど多岐にわたります。

このうち、途上国を含むすべての国が5年ごとに国連に提出する温室効果ガスの削減目標は、削減するガスの種類や具体的な計画に加えて、その国の実情に照らして、適正で十分高い目標といえるのか、その根拠なども詳しく示す必要があるとされました。

先進国では、温室効果ガスの削減状況や資金支援の内容などを国連の事務局に2年に1度報告し、また途上国では、温室効果ガスの削減状況とともに先進国から受けた支援の内容などを専門家が検証します。これらの情報に基づいて各国がそれぞれの国の状況を定期的に確認して、5年ごとに目標を引き上げて、温暖化対策を段階的に強化する道筋が明確化されました。

今回の会議では、各国が掲げる現在の温室効果ガスの削減目標は温暖化による深刻な影響を防ぐためには不十分だとする報告があり、今後は、採択されたルールのもとで各国が温暖化対策を強化できるかが焦点となります。

アメリカ「脱退」の影響 COP24」で、パリ協定に実効性を持たせるためのルールは採択されましたが、地球温暖化を食い止めるうえでは課題が残されています。

去年6月、中国に次ぐ世界第2位の温室効果ガスの排出国アメリカのトランプ大統領は、パリ協定から脱退する方針を表明しました。アメリカは、今回の交渉でも脱退の方針に変わりはないことを強調しました。アメリカが抜ければパリ協定の実効性を欠くことになるだけでなく、追従して温暖化対策に後ろ向きな国が増えることも懸念されています。

地球温暖化対策会議・COP24・国別温暖化対策ランク、日本は49位 5段階評価で最低グループ 毎日新聞より

ポーランドで開催中の国連気候変動枠組み条約第24回締約国会議（COP24）で、温暖化対策の国別ランキングを発表した。

ランキング1～3位は該当なし。「パリ協定」が掲げる産業革命前からの気温上昇を2度未満に抑える目標達成に向けて、十分な取り組みをしている国がなかったためだという。

4位は再生可能エネルギーなどの指標で評価が高かったスウェーデン。5位はモロッコ、6位はリトアニアだった。

日本は、再生可能エネルギー導入が進んだことは評価されたが、2030年度までに13年度比26%減という温室効果ガス削減目標などが不十分だと評価された。パリ協定からの離脱を表明した米国は59位。最下位はサウジアラビア。世界最大の排出国・中国は再生可能エネルギー導入拡大などで33位。



シブヤの庭 2019年1月

学名：Nandina domestica
和名：ナンテン（南天）

ナンテンが今年も多くの赤い実をつけました。

ナンテンは「難を転ずる」ことに通じることから、厄よけ、魔よけとして庭に植えられてきました。また、咳止めの薬としても利用されています。

シブヤの庭では小鳥が種子を運んでくるため、あちこちで小さな若木を見ることが出来ます。

小鳥も味にはこだわりがあり、ナンテンの実を食べる時は他に食べるものが無くなってからとか。